第５６期　事　業　報　告　書

平成２７年４月１日から平成２８年３月３１日まで

公益財団法人　札幌交響楽団

公益財団法人札幌交響楽団は、定款第２章第３条に基づき、交響管弦楽による音楽芸術の普及向上に関し、必要な事業を行い、もって札幌市及び北海道における文化と教育の振興に寄与することを目的とする事業を行った。

定款第２章第４条に掲げる事業を次のように行った。
平成２７年度のオーケストラによる公演

（１）札幌交響楽団を編成し、及び維持すること。

１．評議員、役員等及び事務局
　評議員１９名、理事１８名、監事２名、事務局員１３名

２．交響楽団の編成
　首席指揮者、名誉音楽監督、名誉指揮者　各１名、楽団員７５名（平成２８年３月末日現在）
　ステージスタッフ、ライブラリアン及びパーソネルマネージャー　計５名

３．首席指揮者、名誉音楽監督、名誉指揮者及び楽団員は、次の回数の公演に出演し練習に従事した。

首席指揮者	出演回数１１回、練習日数１３日
名誉音楽監督	出演回数　５回、練習日数　５日
名誉指揮者	出演回数　６回、練習日数　８日

交響楽団としての出演回数は合計１１５回、練習日数９６日
この他小編成による教育や福祉関係の活動４７回
なお交響楽団として移動日も含めての稼働日数は２２２日

（２）交響管弦楽の演奏を行うこと。

１．自主公演

【定期演奏会】

平成２７年６月から平成２８年３月までに１プログラムにつき２回ずつの公演を実施、計２０公演実施した。

定期演奏会は札幌交響楽団の活動の主軸になる公演。ポンマーが３回計６公演、尾高が１回計２公演、エリシュカが２回４公演を指揮した。

【名曲シリーズ】

名曲シリーズは平成２７年６月から平成２８年２月までに５公演実施した。

【特別演奏会】

札幌市内で８公演、北海道内地方で４公演、道外では東京で１公演、計１３公演実施した。

○札幌市内公演

１．	アキラさんのモダンコンサート２０１５	４月１８日
２．	札響シンフォニック・ブラス	５月１０日

３．４　札響ポップス・コンサートVol.13（２公演）　　７月２２日
５．６　アキラさんの大発見コンサート２０１５（２公演）　８月　８日
７．８　札響の第９（２公演）　　１２月１９日、２０日

○北海道内地方公演

札幌交響楽団は北海道内各地に優れた演奏を届けることが重大な使命であると考え、平成２７年度は自主・依頼公演、音楽教室合わせ道内３３公演を実施。

北海道内地方公演－自主公演分

１．　豊頃町公演　　７月１８日
２．　滝川市公演　　８月　７日
３．　遠軽町公演　　８月２０日
４．　小樽市公演　　１月１６日

○東京公演　　３月　８日

エリシュカの指揮で得意のスラヴ音楽プログラムを演奏、好評を博した。

２．依頼公演

各種団体、企業、自治体などが主催する演奏会に依頼に応じて出演。（計４３回）

○札幌市内公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２４回
○北海道内地方公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１９回

北海道新聞社、北海道電力、北洋銀行、札幌市芸術文化財団（キタラ）、北海道公立学校教職員互助会、北海道銀行をはじめ多くの企業、自治体の支援を受けて開催。

（３）青少年の音楽鑑賞及び演奏に関し、指導を行い、その普及を図ること。

オーケストラによる音楽教室を次のとおり開催。（計３４回）

○札幌市内公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２回
○北海道内地方公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０回
○北海道外公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２回

北海道外公演は、文化庁からの依頼により山形、福島、栃木、群馬、埼玉での公演を行った。

楽団員によるワークショップ（体験型音楽教室）では、小学生と音楽を通して交流を深め、鑑賞するだけでなく演奏に参加して得られる感動も広めることができた。（計２６回）

○ワークショップ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７回
○講習会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９回

（４）その他この法人の目的を達成するために必要な事業を行うこと。

１）広報宣伝

○プログラムの発行

定期演奏会はじめ自主公演では毎回、楽曲解説、楽団の活動報告、楽団員紹介を載せたプログラムを発行、公演来場者及び会員、関係先に配布。

○ニュースレターの発行

札幌交響楽団の活動報告、公演案内など、最新情報を掲載したニュースレターを年に４回発行。

○ホームページによる広報

札幌交響楽団の最新情報を掲載し、チケット予約を受け付けるほか、定期会員・パトロネージュ会員の入会案内を行った。また、フェイスブックを用いて随時情報提供を行った。

２）その他の公演事業

○アンサンブル（１１回）

コンサートホール以外の様々な場所でも演奏することによって、クラシック音楽に接する機会が少ない方にも札響の存在をアピールした。

○慰問演奏（１０回）

特別支援学校、老人ホーム、障害者施設などに楽団員が出向き、コンサートに出かけることのできない方々に音楽鑑賞の機会を提供、社会貢献活動を行なった。

３）記録の整理と活用（周年特別会計）

○記録資料

資料文書を整理、録音記録のデータベース化ならびにデジタル化を図っている。

４）テジョン・フィルとの交流事業（周年特別会計）

○コンサートマスターの交流

テジョン・フィルのコンサートマスター、ピル・キュン・ポール・キムが札幌に平成２８年１月１２日から２４日まで滞在、第５８５回定期演奏会のほか、札幌での依頼公演ならびに小樽でのニューイヤーコンサートに出演した。また札幌交響楽団からはコンサートマスターの田島高宏が１月３日から１６日までテジョンへ出向き、定期演奏会、名曲シリーズならびに音楽教室に出演した。

札幌交響楽団
平成27年度活動報告

平成28年5月9日作成

公益財団法人 札幌交響楽団

札幌市中央区中島公園1-15
札幌コンサートホール内
http://www.sso.or.jp

札幌交響楽団の活動

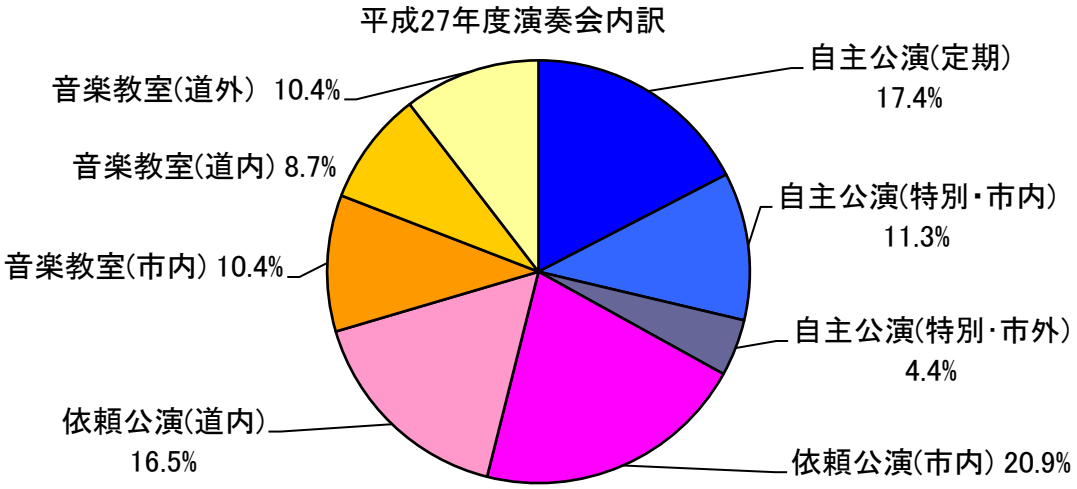
オーケストラ演奏会　計115公演

■自主公演(38公演)

定期演奏会(札幌市内)	20公演
札幌市内	13公演
北海道内	4公演
北海道外	1公演

■依頼公演(43公演)

■音楽教室(34公演)



教育・地域活動、アンサンブル演奏　計 47公演

総計162公演

自主公演 札響が主催した演奏会です。

■ 定期演奏会 年10回 20公演

■ 札幌市内公演 年13公演

札響名曲シリーズ（5公演）
アキラさん(宮川彬良)のコンサート
（モダンコンサート,大発見コンサート2公演）
札響シンフォニック・ブラス
札響ポップスコンサートvol.13（2公演）
札響の第９（2公演）

■ 北海道内公演 年4公演

滝川公演
（アキラさんの大発見コンサート道内公演）
遠軽公演
豊頃公演（萬田記念財団 協賛公演）
札響ニューイヤーコンサートin小樽

■ 北海道外公演 年1公演

東京公演2016

Kitaraの設備改修のためにKitaraが休館となった期間、定期演奏会、名曲シリーズの開幕時期を遅らせた一方、特別演奏会は、ニトリ文化ホール、わくわくホリデーホール(札幌市民ホール)を会場に開催した。写真は、ニトリ文化ホールでの札響シンフォニック・ブラス演奏会の様子。

東京公演は、ラドミル・エリシュカ&札響の東京デビューとして開催。CDで話題を集めていた人気コンビの演奏に、大きな反響が集まった。

依頼公演

企業、自治体などの依頼で演奏会を提供しました。

■ 札幌市内公演

全24公演

Kitara主催（2公演）、さぽーとさっぽろ、友の会、ロジネット、道銀、北洋、ほくでん、HBA、札信、999人の第九、JAF、パナソニック、HTB、日演連が継続して開催。また毎年度道内各地で継続してきたヤマトホールディングス主催による演奏会が札幌で開催されました。

さらに、新たにタナカメディカルグループ主催の演奏会、「若者のための第九」といった、新たな演奏会が生まれました。
他ジャンルとのコラボレーションが活発化し、藤井フミヤ、玉置浩二、来生たかおとの共演による演奏会が行われました。

同年度に再演が行われた玉置浩二との共演など、他ジャンルとの共演が活発化している。写真は3月にKitaraで開催の来生たかおとの共演演奏会に向けてのリハーサルの様子。

首席指揮者就任のポンマーは、7月に早速北海等内各地の依頼演奏会を指揮。

■ 道内各地の公演

全19公演

北海道新聞社との共催　11公演
　（稚内、江別、名寄、登別、三笠、弟子屈、千歳、釧路、岩見沢、北広島、栗山）
ほくでんファミリーコンサート　3公演
　（陸別、名寄、芦別）
北海道公立学校教職員互助会公演　2公演
　（島牧、斜里）
北洋銀行コンサート（小樽）
ホクレングリーンコンサート（岩見沢）
栗原学園創立60周年コンサート(北見)

4月の島牧演奏会で、札幌交響楽団演奏会の道内全市町村訪問が達成された。

音楽教室

青少年向けに音楽の楽しさを伝えました。

- Kitaraファーストコンサート／広域圏ジュニアクラシック

札幌市主催による札幌市内の全小学6年生を対象としたKitaraファーストコンサートは、指揮を新年度から札響指揮者に就任の佐藤俊太郎が担当しました。
平成27年度、Kitaraファーストコンサート全9公演と札幌市広域圏組合主催による近隣市町の小学生を対象とした広域圏ジュニアクラシックコンサート2公演を開催しました。

- ジュニアクラシック

北海道新聞社などの助成をもとに道内各地で開催のジュニアクラシックコンサートは、継続開催の旭川、登別、恵庭、苫小牧、小樽、音更、帯広に加え、倶知安、共和において開催しました。

そのほか、Kitaraを会場に道立北広島高等学校の音楽鑑賞教室を実施しました。

- 文化庁主催･文化芸術による子供の育成事業(巡回公演)

文化庁主催により山形、福島、群馬、栃木、埼玉の5県の学校12校を訪問しました。

教育・地域活動、アンサンブル演奏会

視覚支援学校など公立特別支援学校や各地の福祉施設での訪問演奏を支援を受けながら、継続してします。

各地でのオーケストラ演奏会にあわせ、吹奏楽の指導やワークショップを行うなど、地域の音楽文化振興のため、地域活動を積極的に展開しています。

北海道日本ハムファイターズの試合前イベント出演など、地元の企業、団体との連携をより密接にして、市民、道民へアピールする機会を増やす努力をしています。

北海道新聞社の高齢者向けレクチャー「プラチナスクール」、読売新聞社の働く世代向けレクチャー「朝活」など、市民向けの講座の機会を利用し、新しい顧客を演奏会に呼び込む試みに挑戦し始めました。

マックス･ポンマー首席指揮者に就任
オーケストラとしての新しい展開へ

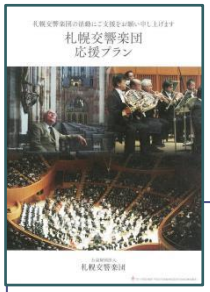
● 首席指揮者マックス･ポンマーの就任

2016年4月、新たに札響を率いる指揮者としてマックス･ポンマーが首席指揮者に就任しました。平成27年度中、ポンマーは、7月の就任記念の定期演奏会のほか、2回の定期演奏会、第9演奏会を指揮、意欲的なプログラムで札響のさらなる発展を目指すとともに、7月には早速道内3市町をめぐるツアーを実施、北海道のオーケストラの指揮者として意欲を示しました。なお、ポンマーの就任にあわせ、尾高忠明前音楽監督には名誉音楽監督、ラドミル･エリシュカ前首席客演指揮者には名誉指揮者の称号をお贈りしました。

↑ 就任披露の定期演奏会のカーテンコールにて、この日の演奏会のライヴ収録CDは12月にリリースされた

←名誉音楽監督と名誉指揮者の推戴状贈呈式は楽団員の前で

● 支援の裾野を拡げる「応援プラン」



←北海道内各地の演奏会会場には、札響の活動と応援プランを紹介するブースを設置した

札響に興味をもってくださった方が支援の気持ちをより気軽に行動にうつしていただけるよう、「寄附」あるいは「演奏会鑑賞」のいずれを選んで10000円で参加できる「応援プラン」を新設しました。この新プランは、文化庁委託事業「平成27年度戦略的芸術文化創造推進事業」として文化庁の助成金を得て6月から、パンフレット配布や広報活動を開始したものです。平成27年度末までに、184件(202万円)の参加を達成しました。

● 金曜定期会員へのステップ「ラッキーフライデークラブ」

入場者数の減少傾向が続く定期演奏会金曜夜公演の入場者数を増やすため、安価で手軽な定期会員お試し制度「ラッキーフライデークラブ」を新設し、初年度限定50名を募集しました。
平成27年度は49名が登録し、定期演奏会や会員向けイベントを体験しました。このうち4割以上となる22名が平成28年度定期会員入会することとなり、そのうちの17名が金曜夜公演を選択しました。一定の成果をあげた「ラッキーフライデークラブ」は今後、新たな顧客層の獲得のヒントになるものと考えています。

★事務局内若手スタッフによるワーキングチームでマネジメント強化へ★ 静岡芸術大学アートマネジメント講座を2年間にわたって受講した事務局内ワーキングチーム5名が、その分析結果をもとに、若い世代を中心にオーケストラやクラシックへの興味を育てるための方策を検討しています。新年度にはその一部の実行に着手しました(名曲シリーズ演奏会来場者に配布の通信「かぷりっちょ」発行など)